

ワークシート活用の留意点

○ワークシート選定の工夫

ワークシートは、全部で30種類あります。1～5はアルファベット大文字を、6以降は小文字を、アルファベット順に扱っていますが、必ずしも、1の大文字から、あるいはアルファベット順に活用する必要はありません。各ワークシートの左上に記載のねらいを参考に、児童の実態に合わせて、またすでに貴校で作成している年間指導計画に沿って、活用してください。各ワークシートのねらいや概要は、「補助教材構成表」として文部科学省HPに掲載してあります。

○ワークシート配布の工夫

ワークシート30種類をすべて印刷して、一括して児童に配布する必要はありません。各ワークシートの右端には、シート番号が大きくなるにつれて、ある言葉が出てくるようになっていきます。そこで、必要な時に必要なワークシートを児童に配布することで、児童が、次のイラストを推測し、次のワークシートを楽しみにできるように工夫してください。



ワークシート活用の留意点

○ワークシート29・30について

ワークシート29は、デジタル教材Hi, friends! Plusの絵本教材 This is ME!で扱っている動作を表す語句をまとめたものです。絵本の読み聞かせで十分慣れ親しんだ語句を文字で見ることで、それぞれの違いがより明確になります。

また、ワークシート30は、この補助教材に関する児童用Can-Doリスト形式での振り返りシートになっています。児童が自分でどのようなことができるようになったかを、確認するために活用してください。



左列には、スポーツをすることを表す語句、楽器を演奏することを表わす語句、中央列には、スポーツや楽器以外で、目的語を伴う動詞を含む語句、右列には、動詞一つだけでも意味を成すものを並べてあります。



雲の色が、四つの技能を表しています。

オレンジ色: 聞くこと
 黄緑色: 言うこと
 (話すこと)
 ピンク色: 読むこと
 水色: 書くこと

デジタル教材Hi, friends! Plus活用の留意点

○デジタル教材に収録されている活動のねらい、内容を十分に理解して活用してください。

デジタル教材には、以下の活動が収録されています。

①アルファベットの大文字・小文字の書き方:「書き方例 アルファベット」

②アルファベットの文字の認識:

「クイズ2 アルファベット文字当て パズル」

「クイズ3 アルファベット文字当て 懐中電灯」

「クイズ4 アルファベット文字当て 何の文字かな」

③アルファベットの読み方と音:

「クイズ1 小文字探し」 Animal Paradise

「クイズ5 What color? Quiz」

「クイズ6 仲間の言葉を集めよう」

「クイズ7 始まりの音がちがうのはどれでしょう」

④アルファベットジングル:

5種類・各バージョン複数種類・速度2種類

⑤絵本

This is ME!

A Letter to

ワークシート1 Let's Write 1

ねらい: アルファベットの大文字
の認識を深める

ここに記されているイラストは、Hi, friends! 1 Lesson 6
What do you want? Let's Play 1「アルファベットの大文字
を探そう。」で扱っているものです。

A: apple, B: book, C: crayon, D: drum, E: egg,
F: fish, G: gorilla, H: hat, I: ink, J: jet, K: king
L: lemon, M: monkey, N: notebook, O: orange, P: pig,
Q: queen, R: rabbit, S: sun, T: tree, U: umbrella,
V: violin, W: watch, X: box, Y: yacht, Z: zero



《活動例① Hi, friends! 1 Lesson 6の中に組み込む場合》

Let's Play 1で、町のイラストの中からアルファベットの大文字を探した後、このシートにあるアルファベットの大文字をなぞる。

《活動例② Hi, friends! 1 Lesson 6を終了した後に活用する場合》

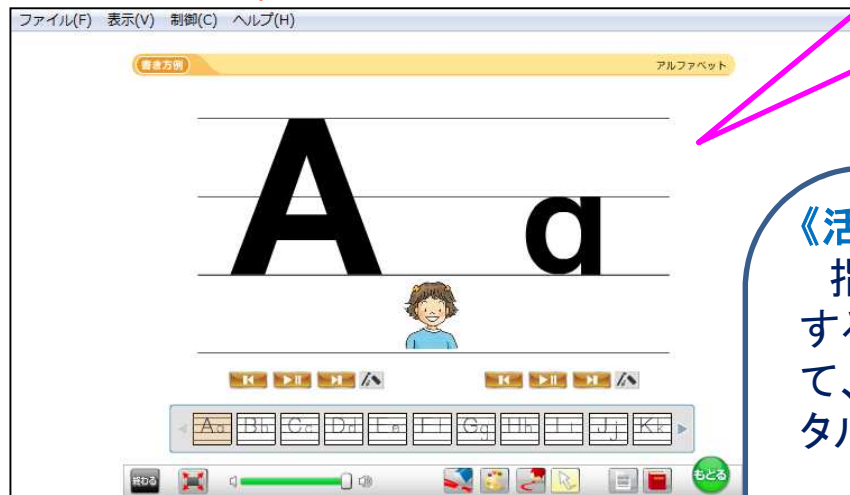
Lesson 6で慣れ親しんだアルファベットの大文字を思い出し、どのような文字があったかを発表する。

ワークシートを見て、各アルファベットの大文字がどんなイラストの中に隠されていたかを思い出して発表し合い、Hi, friends! 1 Lesson 6 p.22-23のイラストを見て確認する。

ワークシートのアルファベットの大文字をなぞる。

デジタル教材 アルファベット

ねらい: アルファベットの文字の認識を
深める



ワークシート4、9に記してある通り、アルファベットの書き順は参考に提示したものであり、決まりはありません。児童が書きやすいように書かせましょう。

《活動例① デジタル教材で書き方を先に提示する場合》
指導者は、デジタル教材の画面下にある[▶]をクリックする。一回目は、書き方を見る。二回目は、そのままをして、デジタル教材に合わせて空書きする。三回目は、デジタル教材で書き方を見た後、自分で空書きする。

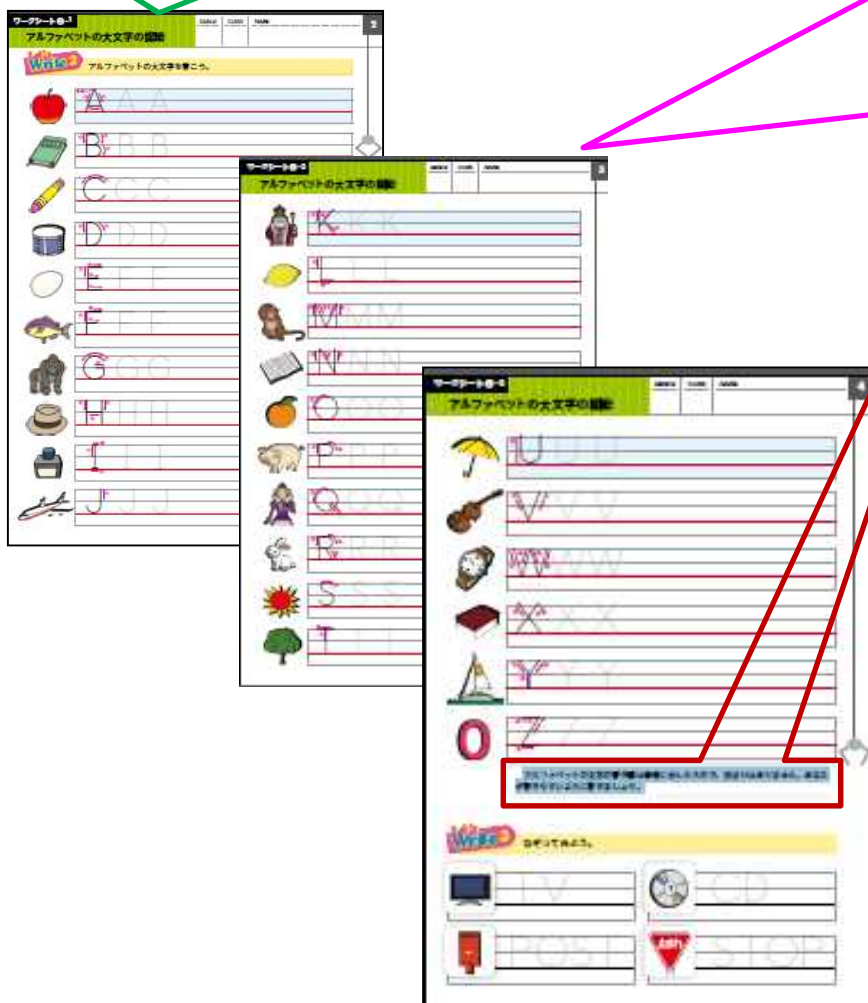
《活動例② デジタル教材で書き方を見る前に、自分で書いてみる場合》

Hi, friends! 1 Lesson 6で慣れ親しんだアルファベットの大文字を思い出す。アルファベットの大文字を自分の書きやすい書き方で、ワークシート1の裏に書く。

デジタル教材で書き方の参考例を見る。参考例と、自分の考えた書き方とを比べ、書きやすい方で空書きする。

ワークシート2~4 Let's Write 2

ねらい: アルファベットの大文字の認識を深める



ここでは、アルファベットの大文字を四線上に正確に書く活動を行います。「アルファベットの文字の書き順は参考に示したもので、決まりはありません。あなたが書きやすいように書きましょう。」と、ワークシート4に示した通り、書き方を参考にしながらも、児童が書きやすいように書かせましょう。

また、1時間の授業すべてを使って、アルファベットを書かせるのではなく、毎回の授業のはじめ等に数分の時間をとって繰り返し書かせるなどして、アルファベットの大文字の認識を深めさせるとよいでしょう。

《活動例 アルファベットを書こう》

- ・参考例にならって、四線上のグレーのアルファベットの文字をなぞる(2回)。その後は、児童が自分で書きやすいように工夫して書く。
- ・その際には、一行に全部書いたり、Aからアルファベット順に書いたりするのではなく、児童の実態に合わせて、3文字だけ書く、授業で扱っている語いや表現に出てくる文字を書くなどの工夫も考えられる。

ワークシート4 Let's Write 3

ねらい: アルファベットの大文字の認識を深める



ここでは、アルファベットの大文字に慣れ親しんできたところで、単に文字を繰り返し書き写すのではなく、児童の身の回りにアルファベットの大文字で表されているものを取り上げています。

TVやCDは、television, compact diskの頭文字で表され、「アルファベットの読み方」で読むものです。POSTやSTOPは、大文字で示されている、児童がよく見る英語での表記です。POSTやSTOPは、TVやCDとは読み方が違うことにも気付かせるとよいでしょう。

《活動例 「これは、何かな」クイズ》

ワークシートに文字を書く前に、TVやCDと書いたカードを見せ、児童にこれらが何かを尋ねる。児童の実態に応じて、実物やその写真を見せるとよい。

次に、POSTやSTOPと書いたカードを見せ、児童にこれらが何かを尋ねる。児童の実態に応じて、実物の写真や絵を見せるとよい。

児童が、カードでこれらが何か、また、読み方がわかったところで、ワークシートLet's Write 3で文字をなぞらせる。

デジタル教材 アルファベット文字当て パズル

ねらい: アルファベットの文字の認識を
深める



児童がアルファベットの文字を読んだり書いたりする活動と並行して、本デジタル教材を活用し、アルファベットの文字の認識を深めるようにしましょう。
9枚の文字と9枚のカードの下に隠す文字については、画面右のボタン操作で、大文字・小文字を選択できます。

《活動例 What Alphabet letter is this?》

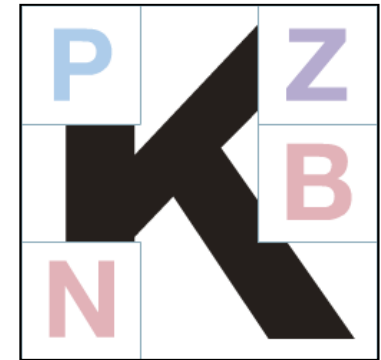
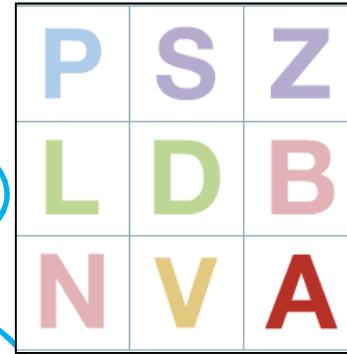
- ・指導者は、デジタル教材の画面右下にあるボタンで、画面上の9枚の文字と9枚のカードの下に隠す文字の大文字・小文字を選択する。
- ・指導者は、次ページに示すようなやり取りを児童としながら、一人の児童を指名し、その児童が言うアルファベットの文字カードをクリックする。
児童とやりとりしながら繰り返して、児童は、カードの下に隠されているアルファベットの文字を答える。

デジタル教材 アルファベット文字当て パズル

Which alphabet card do you want?

Choose one, please.
It's a present for you.

Tomoe-san,
which alphabet
card do you want?



(I want)
The D card, please.

OK, the D card.
Here you are. (「D」をクリック)

What alphabet
letter is that?

Let's check your answer.
Wow, great! That's right.

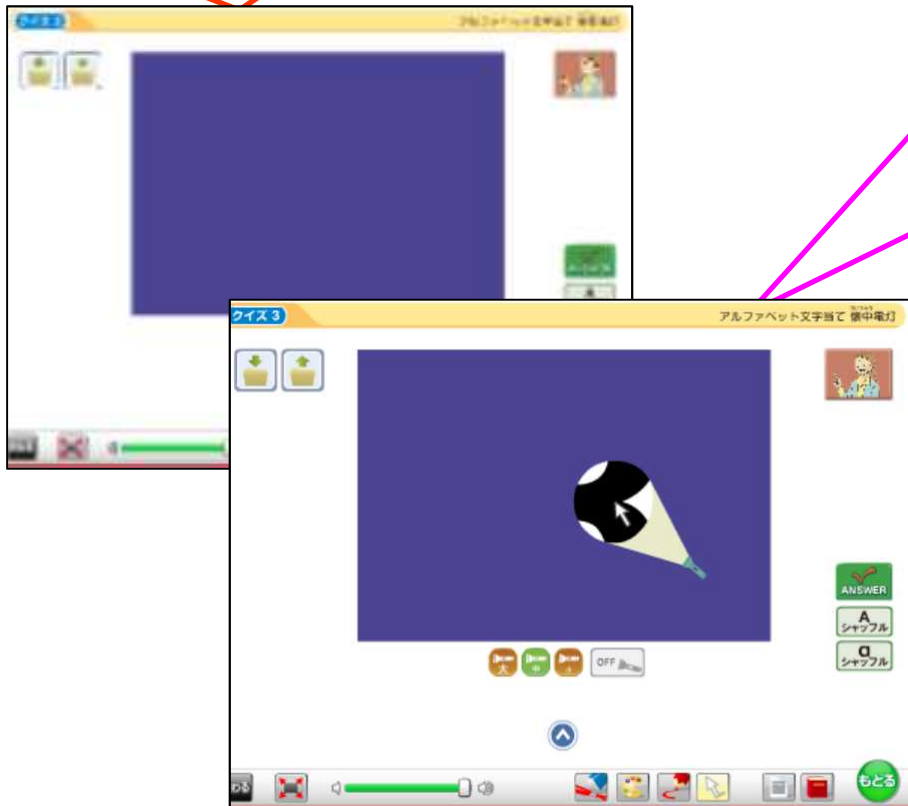
K!

K!



デジタル教材 アルファベット文字当て 懐中電灯

ねらい: アルファベットの文字の認識を深める



児童がアルファベットの文字を読んだり書いたりする活動と並行して、本デジタル教材を活用し、アルファベットの文字の認識を深めさせるようにしましょう。

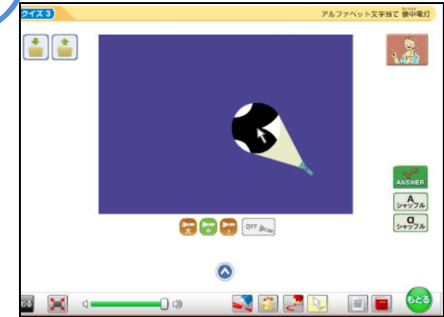
画面右のボタン操作で、隠す文字を選択できます。また、青いスクリーン下のボタン操作で懐中電灯の大きさを、三種類から選択できます。

《活動例 What Alphabet is this?》

- ・指導者は、児童の実態に合わせて、あるいは児童の要求に応じて、懐中電灯の大きさを選択する。
- ・青いスクリーン上に懐中電灯を置き、次ページに示すようなやり取りを児童としながら懐中電灯を移動させる。
- ・児童は、懐中電灯で照らされて見える文字の一部から、どんな文字が隠されているかを答える。

デジタル教材 アルファベット文字当て 懐中電灯

児童が“Slowly, please.”、“Stop, please.”などと発話する状況を作りたいわ。だから、わざと、懐中電灯をすばやく移動させたり、文字の一部が見えてきても気にせずそのまま素早く移動させたりするなどして、児童が「もっとゆっくり動かしてほしい」「そこで止めて、今度は、右に動かしてほしい」と思うような状況を作るといいわね。



This is a flashlight/*kaichudento*.

Which way?
Up? Down? Right? Left?

OK, down.
And which way?

What alphabet letter
is that?

Down, please.

Right, please.

Up, please.

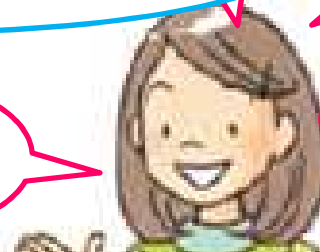
Stop, please.

Slowly, please.

B!

B!

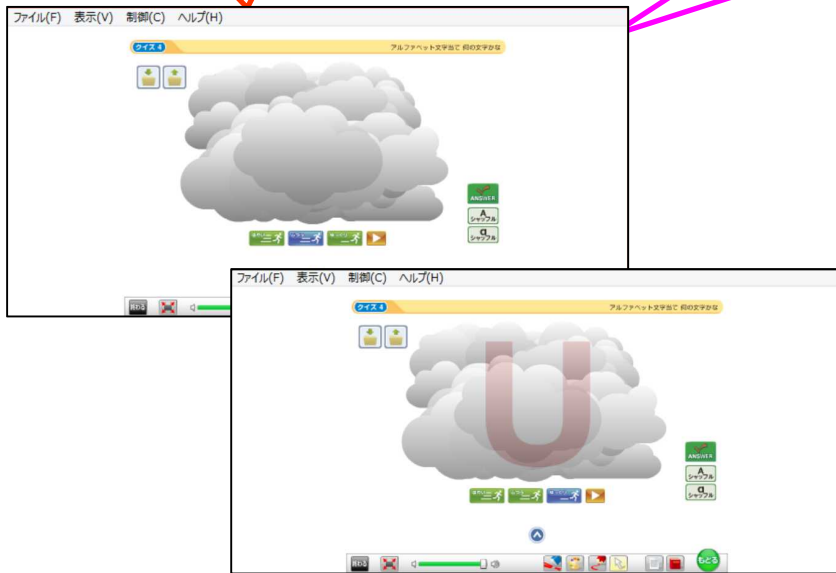
B!



デジタル教材 アルファベット文字当て 何の文字かな

ねらい: アルファベットの文字の認識を深める

児童がアルファベットの文字を読んだり書いたりする活動と並行して、本デジタル教材を活用し、アルファベットの文字の認識を深めさせるようにしましょう。
児童の実態に合わせて、雲が晴れていく速さを選択することができます。



《活動例 何の文字かな》

・指導者は、下のようなやり取りを児童としながら、雲が晴れるのを止めたり、進めたりする。
児童は、雲の向こうに見える文字が何かを推測して答える。



What alphabet letter do you see?

That's right. This is "U".

U!

U!

U!



ワークシート5 Let's Write 6

ねらい: アルファベットの大文字の認識を深める



児童は、Hi, friends! 1 Lesson 1 Let's Play 1 や Activityにおいて、ローマ字で自分の名前を書いて名刺を作成し、友達と挨拶をして交換する活動を行っています。ここでは、ローマ字の訓令式とヘボン式の違いに注目させましょう。第三学年でローマ字を学習した際に、ヘボン式についても学習している場合もありますが、ここでは、名前の表記が訓令式とヘボン式では異なっている児童の名前を取り上げて、その違いを理解させましょう。

また、Hi, friends! 1指導編p.7に「姓と名の区別がつきにくいことから、WATANABE Aiのように姓はすべて大文字、名は頭文字のみ大文字で後は小文字とするなどの表記をして、日本人の氏名にあまり馴染みがない相手でも理解しやすいように心がけることが多い。」と記されていることから、ここでは姓を大文字で表しています。

《活動例 さくらと同じように、あなたの名字をアルファベットの大文字で書こう》

- ・Hi, friends! 1 Lesson 1 Let's Playで学習したことを思い出し、ローマ字で自分の名前を書く。
- ・指導者は、訓令式とヘボン式とでは名前の表記が違う児童の名前(ない場合は、教職員の名前などを利用)を取り上げ、二種類の書き方があることを提示する。その際に、デジタル教材Hi, friends! 1 Lesson 1 Let's Play 1に収録されているローマ字表や国語教科書のローマ字表等を提示するとよい。
また、ALTがいれば、ALTがその児童の名前を英語で書き、導入することも一つの工夫である。
- ・児童は、例「SUZUKI」を参考に、自分の姓をヘボン式で四線上に正確に書く。
- ・四線が書かれた名刺台紙に姓を書いて、挨拶をして名刺交換をする。もらった名刺は、Hi, friends! 1 Lesson 1 Activity欄に貼ったり、本ワークシート裏に貼るとよい。

ワークシート6 Let's Write 1

ねらい: アルファベットの小文字の認識を深める



ここに記されているイラストは、Hi, friends! Plus Animal Paradiseで扱ってるものです。アルファベットの小文字は、以下のイラストの中に隠れています。また、これらをもとにアルファベットジングル(ワークシート19)が作られています。
a: apple, b: bear, c: cat, d: dog, e: elephant, f: fan, g: goat, h: hat, i: ink, j: jam, k: king, l: lion, m: milk, n: net, o: orange, p: pen, q: queen, r: racket, s: sun, t: ten, u: up, v: vest, w: watch, x: box, y: yo-yo, z: zebra

《活動例① Hi, friends! 2 Lesson 1で、アルファベットの小文字に十分慣れ親しんだ上で、Hi, friends! Plus Animal Paradiseで、アルファベットの小文字探しをしてから行う場合》

・児童は、Animal Paradiseの絵のどこに、アルファベットの小文字が隠れていたかを思い出しながら、アルファベットの小文字をなぞる。

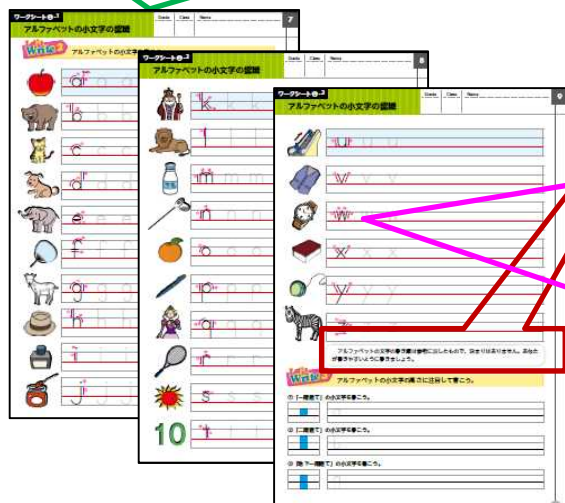
《活動例② Hi, friends! 2 Lesson 1で、アルファベットの小文字に十分慣れ親しんだ上で、Hi, friends! Plus Animal Paradiseで、アルファベットの小文字探しをする前に行う場合》

・児童は、ワークシートのイラストの中に隠れているアルファベットの小文字を見て、それらが何の中に隠されているのか推測する。推測しやすい小文字は、a, f, h, i, j, k, n, r, t, y などである。

・次に、Animal Paradiseの絵からアルファベットの小文字を実際に見つけた後、アルファベットの小文字をなぞる。

ワークシート7~9 Let's Write 2

ねらい: アルファベットの小文字の認識を深める



ここでは、アルファベットの小文字を四線上に正確に書く活動を行います。「アルファベットの文字の書き順は参考に示したもので、決まりはありません。あなたが書きやすいように書きましょう。」と、ワークシート9に示した通り、書き方を参考にしながらも、児童が書きやすいように書かせましょう。

また、1時間の授業すべてを使って、アルファベットを書かせるのではなく、毎回の授業のはじめ等に数分の時間をとって繰り返し書かせ、アルファベットの小文字の認識を深めましょう。

なお、**a**から順に扱う必要はありません。扱っている題材と合わせて文字を選択するとよいでしょう。

aから始めなくてもいいわね。ちょうど今、Hi, friends! 2 Lesson 3で、様々なスポーツやplayを何度も扱っているのだから、今回は **p**, **l**, **a**, **y** の文字を書くことにしよう。

《活動例 Hi, friends! 2 Lesson 1を終了した後に活用》

- ・本単元で、アルファベットの小文字に出合わせ、アルファベットの読み方と小文字とを一致させることに児童が慣れてきたら、ワークシートを活用して、更にアルファベットの小文字の認識を深めさせる。
- ・児童は、ワークシートに示された書き方をまねて、アルファベットの小文字をなぞる。
- ・アルファベットの読み方を言いながら、その小文字を空書きする。
- ・ワークシートの四線上に、左のアルファベットの小文字を参考に、複数回文字を書く。

ワークシート9

Let's Write 3

ねらい: アルファベットの小文字の認識を深める



※次ページに、授業のイメージあり。

本活動では、アルファベットの小文字の認識が十分深まってきたところで、改めてアルファベットの小文字の高さに焦点を当てます。

ワークシートでは、アルファベットの小文字を、四線のうちの軸線を基準にして、その上の線との間に書く文字を「一階建て」、四線の一番上の線との間に書く文字を「二階建て」、一番下の線に届くように書く文字を「地下一階建て」と呼び、アルファベットの小文字26文字をこれら三種類に分類しています。

《活動例 アルファベットの小文字の高さに注目して書こう》

- ・指導者は、アルファベットの小文字カードの上に無地の紙を載せて隠し、その無地の紙をずらしながら小文字の一部を見せて、それが何かを尋ねる。小文字の形や児童の求めに応じて、無地の紙を上下左右にずらす。児童が答えたところで、そのカードを黒板に貼る。他の小文字でこれを繰り返す。
- ・児童が答えた文字を黒板に貼る際に、「二階建て」の小文字を黒板上方に、「地下一階建て」の小文字を黒板下方に、その間に「一階建て」の小文字を分類して貼っていく。それぞれ二、三枚の小文字カードを貼ったところで、児童にそれぞれどのような特徴でグループ分けをしているかを尋ねる。児童とやり取りしながら、更に小文字を分けて貼っていく。
- ・26文字が三種類に分類されたところで、それぞれのアルファベットの読み方を確認し、Let's Write 3に取り組む。

ワークシート9

Let's Write 3

二階建て

l b h

一階建て

z c m

地下一階建て

p q g

〇月〇日(〇曜日)

a ? k

〇月〇日(〇曜日)

ワークシート10

Let's Write 4・5・6

ねらい: アルファベットの大・小文字の認識を深める

本活動では、アルファベットの文字の認識が十分深まってきたところで、アルファベットの大・小文字の形に焦点を当てます。

ワークシートでは、アルファベットの大文字と小文字を、「よく似た形」「少し似た形」「似ていない形」の三種類に分類し、提示しています。



《活動例 アルファベットの文字をグループ分けしよう》

・指導者は、アルファベットの大文字と小文字のカードを見せながら、黒板に貼る。まず、「よく似た形」のアルファベットの文字のうち、C, Wの文字カードを黒板左端に並べて貼り、その右隣に児童と確認しながらそれらの小文字カードを貼る。次に、「少し似た形」のアルファベットの文字のうち、L, Tを、黒板中央に貼り、その右隣に児童と確認しながらそれらの小文字カードを貼る。最後に、「似ていない形」のアルファベットの大文字のうち、D, Mの文字カードを黒板右端に並べて貼る。

・黒板に貼っていない大・小文字カードを黒板の空いたスペースに貼り、その中から大文字カード1枚を児童に提示し、それが三つのどのグループになるか尋ね、児童の指示に合わせて黒板に貼る。児童は、黒板に貼られた文字カードの中からその小文字を選び、その文字の右隣に貼る。これを繰り返し、26文字を三つのグループに分ける。

・この活動を生かして、ワークシート10 Let's Write 4, 5, 6を行う。

※次ページに、授業のイメージあり。

ワークシート10

Let's Write 4・5・6

〇月〇日(〇曜日)

C c L l D d

W w T t M m

P ? p

ワークシート11

Let's Write 7・8・9

ねらい: アルファベットの大・小文字の認識を深める

本活動では、アルファベットの文字の認識が十分深まってきたところで、アルファベット順に小文字を言ったり、書いたり、大文字と合わせて小文字を書いたりします。

児童は、アルファベットの歌やチャンツでアルファベット順に慣れ親しんでいることから、ここではアルファベット順に言ったり、書いたりします。

ワークシート②-2

アルファベットの大・小文字の認識

Grade: _____ Class: _____ Name: _____

Write 7 アルファベット順になるように□の中にアルファベットの小文字を書こう。

a	□	c	d	e	f	□	h	□
j	k	□	m	□	o	□	q	□
s	t	□	v	□	x	y	□	□

Write 8 アルファベット順にアルファベットの小文字を書こう。

Write 9 アルファベットの大文字とペアになるように□に小文字を書こう。

A	□	B	□	C	□	D	□	E	□	F	□	G	□
H	□	I	□	J	□	K	□	L	□	M	□	N	□
O	□	P	□	Q	□	R	□	S	□	T	□		□
U	□	V	□	W	□	X	□	Y	□	Z	□		□

《活動例 アルファベット順に言ってみよう、書いてみよう、読んでみよう》

・Hi, friends! 1 Lesson 6 Alphabet Chantあるいは、アルファベットの歌を言ったり歌ったりする。Hi, friends!や英語ノートのデジタル教材を活用してもよいし、指導者が児童と一緒に言ったり歌ったりしながら、黒板にアルファベットカードを貼ってもよい。

・また、ワークシートLet's Write 7, 8, 9を行う前後に、以下のような活動を行うとよい。

- 児童と一緒にアルファベットの文字を空書きする。
- Hi, friends! 1, 2児童用アルファベットカードでカルタ取りをする。
- 児童用アルファベットカードでアルファベット順並べをする。
- グループに2セットの児童用アルファベットカードを用意し、カード取りゲーム(Hi, friends! 指導編参照)、神経衰弱、Go fishなどのカード遊びをする。

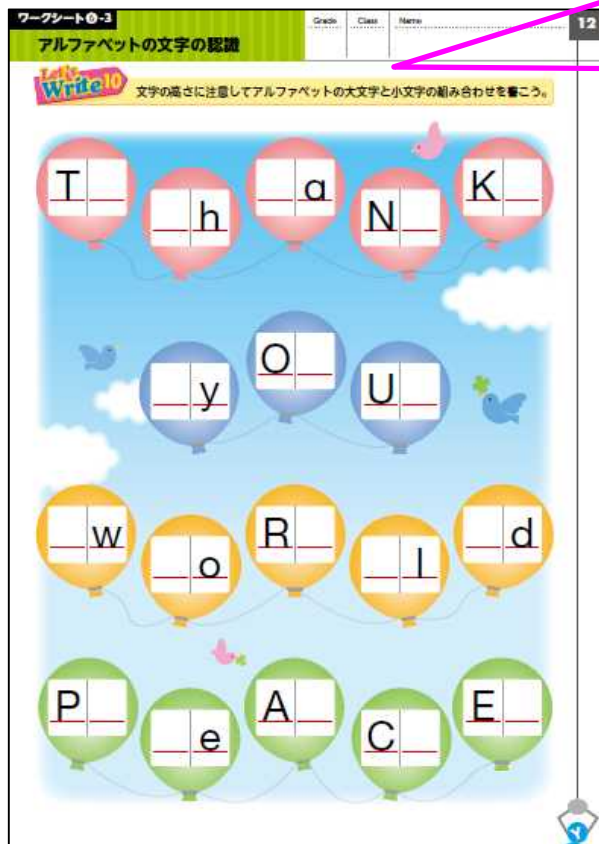
ワークシート12

Let's Write 10

ねらい: アルファベットの文字の認識を深める

本活動では、アルファベットの文字の認識が十分深まってきたところで、アルファベットの大文字と小文字合わせをします。

この活動を行う前後に、アルファベットの大文字と小文字を合わせるゲーム等を行い、更にアルファベットの文字の認識を深めさせるとよいでしょう。

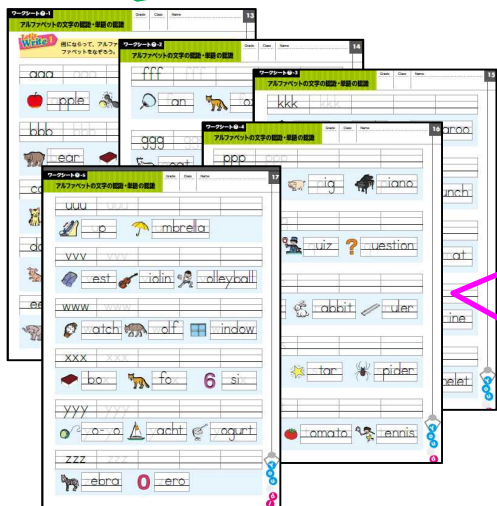


《活動例 風船を完成させよう》

- ・風船の中にアルファベットの大文字と小文字とを合わせて書く。
- ・風船の文字は、THANK YOU と WORLD PEACEを表している。Thank you.は、外国語活動の中で大切にしたい言葉であり、WORLD PEACEは、デジタル教材に収録されている絵本 A Letter to ...で扱っている言葉である。
- ・Let's Write 10を行う前後に、以下のような活動を行うとよい。
 - Hi, friends! 1, 2児童用アルファベットカードでカルタ取りをする。
 - 児童用アルファベットカードでアルファベット順並べをする。
 - グループに1(2)セットの児童用アルファベットカードを用意し、ポインティングゲーム、ラッキーカードゲーム、メモリーゲーム (Hi, friends! 指導編参照)、神経衰弱、Go fishなどのカード遊びをする。

ワークシート13～17 Let's Write 1

ねらい: アルファベットの文字
の認識・単語の認識を
深める



本活動では、アルファベットの小文字をかためて書く(文字と文字との間にスペースを置かず、詰めて書く)活動、また、単語の中の1文字をなぞる活動を通して、アルファベットの文字の認識をより深めるとともに、単語への認識を深めることをねらいとしています。これは、単語のつづりを理解させよう、覚えさせようというのではなく、アルファベットの文字と文字の間にスペースを置かず、詰めて書くことに慣れさせたり、アルファベットの文字が複数集まって意味のある単語になることを視覚的に認識したりすることをねらいとしています。児童が文字を書くことに飽きないように、毎回少しずつ丁寧に書くとよいでしょう。

また、各アルファベットに示されている単語のうち左端のものは、ワークシート5でイラストとともに示されている単語です。

《活動例① 文字を詰めて書こう》

・各アルファベットの小文字を、例にならって三つまとめて書く。

《活動例② 文字をなぞって単語を完成しよう》

・単語の中のグレーの部分丁寧になぞる。

・この活動とともに、Hi, friends! 1, 2児童用アルファベットカードを使って、個人、ペア、グループで以下のような活動をするとうい。活動によっては、カードが2セット必要である。

カードゲーム例: ポインティングゲーム、ラッキーカードゲーム、メモリーゲーム(Hi, friends! 指導編参照)、アルファベット順並べ、カルタ取り、神経衰弱、Go fishなど

ワークシート18

Let's Write 1

ねらい: アルファベットの文字の認識を深める

ワークシート5 Let's Write 6では、大文字で姓を書く活動を行っています。本活動では、これまでアルファベットの大・小文字の認識を深めてきたことを踏まえて、自分の名前や学校名を、大文字と小文字で丁寧に書かせます。

また、第三学年でローマ字の訓令式について学習していますが、ここでは、訓令式とヘボン式、英語の表記の違いについて気付かせる工夫もできるでしょう。

《活動例 英語(ヘボン式ローマ字)で名前を書こう》

- ・Hi, friends! Lesson 1 Let's Play や Activityで、名刺を作って交換をした活動を思い出し、訓練式ローマ字で自分の名前を書く。
- ・指導者は、あらかじめ用意しておいた訓令式ローマ字表記とは違うヘボン式ローマ字表記で書いた児童の名札を見せ、それが誰の名前かを尋ねる。児童は、その児童の訓令式ローマ字で書いた名前と比べ、訓令式とヘボン式の違いを理解する。(訓令式ローマ字一覧表は、デジタル教材 Hi, friends! 1 Lesson 1 Let's Playに収録) (ALTが来校時には、ALTが児童の名前を英語で書いてみせるとよい。)
- ・児童は、自分の名前をヘボン式ローマ字でワークシートに書く。また、学校名をヘボン式で書くとどうなるかを考え、発表し、みんなで表し方を確認し、ワークシートに書く。

ワークシート19～22

ねらい: アルファベットの文字の
認識・音の認識を深める



デジタル教材Hi, friends! Plus 「小文字探し」「What Color? Quiz」を活用して、児童がアルファベットには「読み方」と「音」とがあることに気付いた後、アルファベットジングルを毎回の授業で繰り返し言うことで、アルファベットの文字の更なる認識と、アルファベットの音の認識を深めます。

ワークシート19～22は、児童が、授業外でもこのシートを見てジングルを口ずさめるように、順に「身の回り編」「食べ物編」「動物編」「国旗編」ジングルの歌詞となっています。ワークシート19～21は、アルファベットの読み方・音、単語を扱い、ワークシート22の「国旗編」のみ、アルファベットの読み方と国名を扱っています。

《活動例 アルファベットの読み方と音に慣れよう》

- ・毎回の授業で、これらのジングルを映像を見ながら言う。
- ・各ジングルには、バージョンが複数、また速度も二種類設定されているので、児童の実態に合わせて選択するとよい。また、児童に選ばせるのもよい。
- ・ジングルを言いながら、各児童が机の上に置いたアルファベットカードを指し示すなどの工夫をするのもよい。

ワークシート23・24 Let's Write 1 前半

ねらい: アルファベットの文字の認識・単語の認識を深める



本活動では、アルファベットの文字の認識が十分深まった上で、児童が複数のアルファベットの読み方を聞いて、四線上に丁寧に書く活動を行うことを通して、単語の認識を更に深めます。

扱う文字は、これまでに児童が何度も聞いたり言ったりして馴染みのある、各シートに記載されているイラストの単語の文字です。

ワークシート23: bat, cat, mat, hat, ten, pen, fox, box

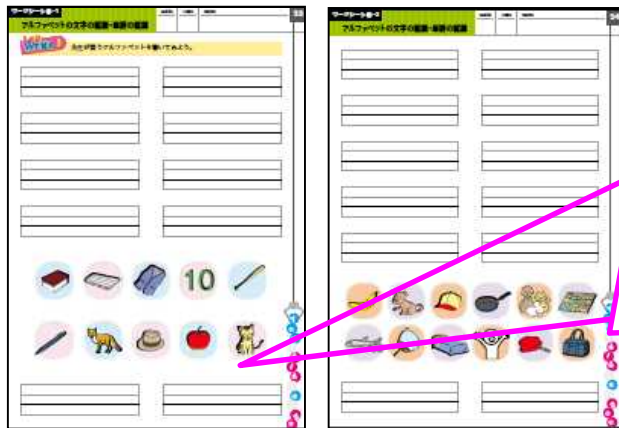
ワークシート24: map, cap, bag, dog, fan, pan, jet, pet, red, bed

《活動例 アルファベットを聞き取ろう》

- ・指導者が言う三つのアルファベットの読み方を聞いて、児童は四線上に丁寧にアルファベットの小文字を書く(b, a, t・c, a, t・m, a, t・h, a, t・t, e, n・p, e, n・f, o, x・b, o, x・m, a, p・c, a, p・b, a, g・d, o, g・f, a, n・p, a, n・j, e, t・p, e, t・r, e, d・b, e, d)。
- ・指導者は、児童が三つのアルファベットの小文字を書いたことを確認し、全員で空書きしたり、ペアで確認したりした後、黒板に代表児童が書いたり、指導者が書いたり、アルファベットカードを提示したりして、答えを確認する。
- ・8種類の単語の確認が終わったところで、指導者は最初の四つ、次の二つ、最後の二つの共通点を尋ねる。二つ目、三つ目のアルファベットの文字がそれぞれ最初の四つはat、次の二つはen、最後の二つはoxとなっている。
- ・指導者は児童の様子を見ながら、それらが何か、どこかで見たり聞いたりしたことはないかなどと問いかけ、ワークシートにあるイラストを表していることに気付かせるようにする(bat, cat, mat, hat, ten, pen, fox, box, map, cap, bag, dog, fan, pan, jet, pet, red, bed)。このように英語では、アルファベットの文字が合わさって一つの単語になっていることに気付かせるようにする。

ワークシート23・24 Let's Write 1 後半

ねらい: アルファベットの文字の
認識・単語の認識を深
める



本活動では、アルファベットの文字の認識が十分深ってきたところで、単語の認識を更に深めます。

Let's Write 1では、児童が複数のアルファベットの読み方を聞いて四線上に丁寧に書く活動を行うことを通して、単語の認識を深めます。扱う文字は、これまでに児童が何度も聞いたり言ったりして馴染みのある、各ワークシートに記載されているイラストの単語の文字です。

ワークシート23: vest, apple

ワークシート24: banana, happy

これらを書くことによって、児童に「今までよく聞いたり言ったりしていたapple, banana, happyって、こんなふうを書くんだ」「ベストって、bじゃなくて、vなんだ」と、音を文字に表すうれしさ、楽しさを味わわせましょう。

《活動例 アルファベットを聞き取ろう》

- ・指導者が言う4～6文字のアルファベットの読み方を聞いて、児童は四線上に丁寧にアルファベットの小文字を書く(v, e, s, t・a, p, p, l, e・b, a, n, a, n, a・h, a, p, p, y)。
- ・指導者は、児童がそれぞれアルファベットの文字を書いたことを確認し、全員で空書きしたり、ペアで確認したりした後、黒板に代表児童が書いたり、指導者が書いたり、アルファベットカードを提示したりして、答えを確認する。
- ・指導者は児童の様子を見ながら、それらが何か、どこかで見たり聞いたりしたことはないかなどと問いかけ、ワークシートにあるイラストを表していることに気付かせるようにする(apple, vest, banana, happy)。このように英語では、アルファベットの文字が合わさって一つの単語になっていることに気付かせるようにする。

ワークシート25 Quiz 1

ねらい: 語順への気付きを促す



Quiz 1は、指導者が言う英語を聞いて、No.1 ~ No.4それぞれ二つの絵からふさわしい絵を選ぶ活動です。

No.1 The pig is chasing the elephant.

No.2 The elephant is chasing the alligator.

No.3 The cat is chasing the dog.

No.4 The cat is chasing the mouse.

No.1とNo.2のイラストや英文は、児童が絵本“A Letter to”の読み聞かせや、それを題材にした活動で何度も見ながら、聞いたり言ったりしたものです。ところが、絵本では、No.3のように猫と犬は追いかっこをしていませんし、また、No.4のようにねずみは絵本には登場しません。そのため、児童は、指導者の言う英語に注意を払って聞かないと、正解が得られないこととなります。つまり、猫か犬のどちらが追いかける方(主語)、あるいは、猫か犬のどちらが追いかられる方(目的語)なのかを聞き取ることとなります。このようにして、英語では語順が大切であることに気付かせるようにします。

ワークシート26 Challenge 1・Quiz 2

ねらい: 語順への気付きを促す

Challenge 1は、児童自身が、4種類の絵を英語で表す活動です。

左上 Sakura is chasing Taku.

右上 Taku is chasing Hikaru.

左下 Hikaru is chasing Ai.

右下 Ai is chasing Tomoe.

Quiz 1で気付いた語順をもとに、児童は4種類の絵を見て、その様子を文で表現します。追いかける「人(主語)」が文頭にくる、動作「追いかける(述語)」が主語の後にくる、追いかけられる「人(目的語)」が文末にくるという語順を、自分で考えながら言うことで、認識をより深めることができるでしょう。



Quiz 2は、絵本“A Letter to”の代わりに、児童に馴染みのある“A Big Turnip”で繰り返し出てくる“is pulling”を扱っています。ここでは、指導者が言う英語を聞いて、No.1, 2それぞれ二つの絵からふさわしい絵を選ぶ活動です。

No.1 Grandpa is pulling Grandma.

No.2 The dog is pulling the cat.

ここでは、児童がこれまでに絵本で聞き慣れたり、言い慣れたりしている表現とは違う表現を扱っています。Quiz1やChallenge 1で確認した語順と同じ表現を扱うことで、児童の語順への気付きはより確かなものになるでしょう。

ワークシート27 Challenge 2・3

ねらい: 語順への気づきを促す

Challenge 2は、児童自身が2種類の絵を英語で表す活動です。
左 Sakura is pulling Ai.
右 Hikaru is pulling Taku.

Quiz 2で気付いた語順をもとに、児童は2種類の絵を見て、その様子を文で表現します。引っ張る「人(主語)」が文頭にくる、動作「引っ張る(述語)」が主語の後にくる、引っ張られる「人(目的語)」が文末にくるという語順を、自分で考えながら言ってみることで、認識をより深めることができるでしょう。

ワークシート 27-3 語順への気づき

Guide: _____ Class: _____ Name: _____

27

Challenge 2 次の様子を英語で表してみよう。

Challenge 3 次の絵の様子を、表しているのはどちらか考えて、選ぼう。

A Taku is chasing Hikaru.
B Hikaru is chasing Taku.

A Taku is pulling Hikaru.
B Hikaru is pulling Taku.

英語の文の決まりについて気付いたことを書いてみよう。

Challenge 3は、絵を見て、それに合う文を選ぶ活動です。児童は、Challenge 1, 2で言った表現をイラストや文字を見て、選びます。その際に、語句が色分けされていることに気付かせるようにすることが大切です。そして、最後にワークシート25-27の活動で気付いたことをワークシートの下に書くことで、気づきを明確にすることが大切です。

なお、児童がTakuやHikaru以外の文字を読むことは難しいこと、またそれを求めているわけではないことから、語句の上にもその意味を表すイラストを提示しています。さらに、「追いかける・引っ張る人(主語)」はピンク色、動作「追いかける・引っ張る(述語)」は水色、「追いかけられる・引っ張られる人(目的語)」は黄色と色分けし、児童に語順がよりわかるようにしています。

ワークシート28 Let's Write 1

ねらい: アルファベットの文字
の認識を深める



このワークシートは、児童の実態に合わせて、指導者が工夫して活用するためのものです。

児童がアルファベットを四線上に丁寧に書く、ワークシート23, 24のように、指導者が言う複数の文字を書くなど、様々な活動で活用できます。

《活動例① アルファベットを聞き取ろう》

- ・指導者が言う4～6文字のアルファベットの読み方を聞いて、児童は四線上に丁寧にアルファベットの小文字を書く。(例: j, a, m・i, n, k・n, e, t・s, i, x・p, i, g など)
- ・指導者は、児童がそれぞれアルファベットの文字を書いたのを確認し、全員が空書きしたり、ペアで確認したりした後、黒板に代表児童が書いたり、指導者が書いたり、アルファベットカードを提示したりして、答えを確認する。

《活動例② 好きな動物や食べ物の単語を書き写そう》

- ・児童は、ワークシート19～21にある身の回りのもの、動物、食べ物から好きなものを選んで、その単語を書き写す。

ワークシート29



デジタル教材Hi, friends! Plusに収録されている絵本“*This is ME!*”で扱っている「動作を表す語句」を一覧にしています。

絵本の読み聞かせや絵本を題材にした様々な活動を通して、児童が絵本で扱われている語いや表現を聞いたり言ったりして十分に理解した後、その整理として使います。

《活動例① ポインティングゲーム①～④》

・手順は、Hi, friends! 1 指導編p.23を参照。

《活動例② どの場面かな》

・指導者は、デジタル教材の絵本“*This is ME!*”で扱われている表現の中から、ワークシートにある13種類のイラストの下にある語句を含む文を選んで言う。児童は、それを聞いて、そのイラストを指し示す。

ワークシート30



このワークシートは、補助教材Hi, friends! Plusの振り返りカードです。補助教材(あるいは、補助教材作成の三つのポイントを意識した教材等)を活用した活動を行った後、児童が自己評価をするためのものです。

ワークシート上の雲の色は、それぞれ4技能を表しています。

聞くこと: オレンジ
 話す(言う)こと: 黄緑
 読むこと: ピンク
 書くこと: 水色

様々な活動が終わった後、指導者が指定する雲について児童があてはまると思えば、雲に色を塗るなどして活用してください。